

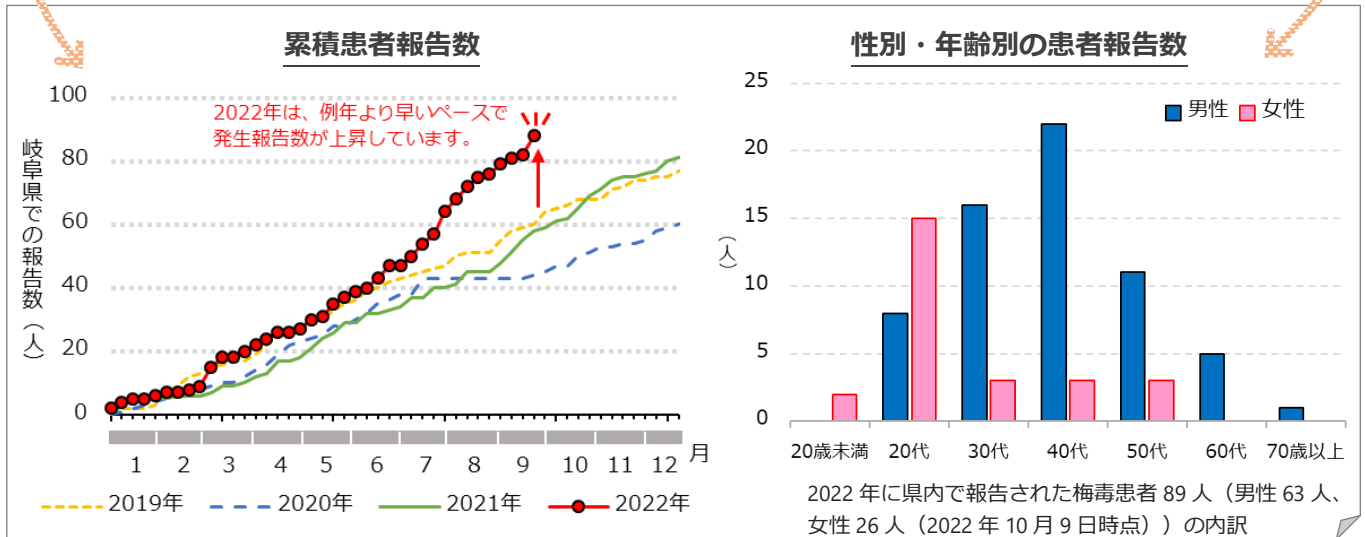
大人のための ぎふ感染症かわら版

令和4年10月14日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



梅毒にかかっている人が増えています！

岐阜県内の梅毒患者報告数が例年よりも早いペースで増加しており、2022年は9月末時点ですでに過去最多となっています。性感染症の一つである梅毒は、近年全国的に患者数が増加しており、岐阜県の場合男性では30代～40代、女性では20代の割合が多い状況となっています。



どんな病気？

梅毒トレポネーマという病原菌による感染症であり、長い時間をかけて症状が進行します。感染後も無症状であることが多く、知らない間に他人に感染させてしまう場合があります。感染早期に抗菌薬による治療を行うことで完治しますが、治療をせずに放置すると、数年後に重い症状をおこすことがあります。

梅毒の経過

感染

早期梅毒
1期

早期梅毒 1期：感染から1ヶ月前後

感染した部位（陰部、唇、口の中、肛門など）にしこりができます。治療をしなくても数週間で症状は治まりますが、治ったわけではありません。

一時的に
症状が
消えます

潜伏梅毒

早期梅毒 2期：感染から1～3ヶ月後

病原体が血液によって全身に運ばれ、手のひら、足の裏、体全体にうっすらと赤い発疹があらわれます。治療をしなくても数週間～数ヶ月で症状がなくなることがあり、また、症状が再発することもあります。皮膚以外の臓器に様々な症状を起こすこともあります。

一時的に
症状が
消えます

潜伏梅毒

晩期梅毒：感染から数年後

皮膚などにゴムのような腫瘍ができることがあります。心臓、血管、脳など複数の臓器に病変ができ、死に至ることもあります。

晩期梅毒

どう感染するの？

主として性行為の際に、感染部位と粘膜や皮膚が接触することにより感染します。具体的には、性器と性器、性器と口、性器と肛門の接触などが原因となります。

感染しているかどうかを知るには？

梅毒の感染は、医師の診察と血液検査（抗体検査）で判断します。皮膚科、泌尿器科、婦人科などで検査を受けることができます。梅毒の感染がわかった場合には、パートナーも検査を受けましょう。



★ 県内の保健所でも、匿名・無料で梅毒の抗体検査を受けることができます

保健所によって検査日が決まっており予約が必要です（検査日は HIV 抗体検査と同日です。また岐阜市保健所以外の7保健所では、梅毒のみの検査を希望することができます。）。詳しくは下記をご覧ください（県感染症対策推進課ホームページ「HIV 抗体検査のご案内」）。



<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/297713.pdf>

妊婦の方へ ～梅毒はお母さんからお腹の赤ちゃんに感染することがあります～

妊娠している女性が梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児に感染し、死産や早産を起こしたり、生まれてきた赤ちゃんに重い症状を起こすことがあります（先天梅毒）。県内でも2019年以降、先天梅毒の患者が数件報告されています。

先天梅毒の発生を防ぐため、初期の妊婦健診で梅毒の抗体検査が行われています。ただし、検査後に梅毒に感染して赤ちゃんが先天梅毒となることもあるため、検査が陰性であっても、出産までの感染予防が大切です。

また、妊婦健診で梅毒に感染していることがわかった場合、早期に適切な治療をすることで、先天梅毒を防ぐことができます。



予防方法は？

不特定多数との性行為を避けることが基本になります。

コンドームの使用は、感染部位との接触を防ぐため、感染予防に効果があります。

（ただし、コンドームが覆わない部分の接触で感染する可能性もあるため、100%感染を予防できるわけではありません。）

皮膚や粘膜に異常があった場合は、早めに医療機関を受診することが大切です。

梅毒は、症状の消える期間があるため、受診と治療が遅れることがあります。自分自身のため、またパートナー、そして赤ちゃんのためにも、早期発見・早期治療が何より大切です。感染の心配のある方は、検査を受けましょう。



通常は、インフルエンザや感染性胃腸炎などの感染症流行状況や予防に役立つ情報をわかりやすく解説した「ぎふ感染症かわら版」を発行しております。

くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

